민	記	镁	#	⋍	-
ויכ	6C1	ग्र	ᆪ	兂	_

77110118724772			委記	£業務等.	成績評定	表				
										作成
	ı				事務所	各				
委託業務名										
業務番号						<i>1</i>				
	初:¥					:終:¥				
	初:		~		듌	終:		~		
完了年月日	_									
完了検査年月	Н									
受注者名	Ħ									
管理技術者氏 照査技術者氏										
主任技術者氏										
担当技術者氏										
担当技術者氏										
担当技術者氏										
総括監督員職										印
主任監督員職										印
検査員職名·B										印
NATION OF THE PROPERTY OF THE			主任監	総括監		1		Į.	技術者評?	
	評価項目	1	督員等 評定点	督員等 評定点	検査員 評定点 ⑤	業務 ⑦()	評定 主1)	管理技術 者、主任	担当技術者	照査技術者
	T		1	3	9		ı	技術者	加也	11
	提案	力、改善力	60	-	_	①× 10/10	60.0	120.0	120.0	-
	業務	執行技術力	28	20	20	①×1/10+ ③×5/10+ ⑤×4/10	20.8	83.2	83.2	_
専門技術力	施工時への配	概略設計、 予備設計	20	1	1	① × 10/10	20	20	20	1
	慮(注 2)	詳細設計		-	_	①× 10/10		0	0	Ī
	コス	ト把握能力 (注2)	20	ı	_	①× 10/10	20	20	20	Ī
	工科	星管理能力	60	_	_	①× 10/10	60.0	120.0	_	_
管理技術力		賃管理能力	60	_	_	①× 10/10	60.0	120.0	_	120.0
		、弾力性、調整能力	60	_	_	① × 10/10	60.0	60.0	_	_
コミュニケー ションカ	ション	、プレゼンテー ッカ、協調性 	28	_	20	①×1/10+ ⑤×9/10	20.8	20.8	20.8	_
取組姿勢	責任感.	、積極性、倫理 観	20	20	_	①×1/10+ ③×9/10	20.0	40.0	40.0	_
成	果品の品	質	20	_	20	①×1/10+ ⑤×9/10	20.0	160.0	100.0	20.0
⑩=⑦の評定点	点の加重	平均点(注3)	_	_	_	_	32	32	25	47
①事故	対等による	·減点	_	_	_	_	0	0	0	0
⑫瑕疵修補又	.は損害則	音償による減点	_	_	_	_	0	0	0	0
①総合	評定点=①	0+(1)+(12)	_	_			32	32	25	47

- | 1. 各評価項目の「⑦業務評定」は、少数第一位までとする。 2. 「施工時への配慮」および「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。 3. 「⑩=⑦の評定点の加重平均点」は、少数第一位を四捨五入し整数とする。

8. 業務評定項目

0. <u>ж</u> .	וםועני	<u>定項目</u> 評価項目		評価の視点	(1)地:	質調査、単純訓	査等業務、測			(2)調査業績	務、計画業務			(3)彭	計業務	
		計逥垻日			主任監督員	総括監督員	検査員	評定点	主任監督員	総括監督員	検査員	評定点		総括監督員	検査員	評定点
				業務着手段階における業務特性等の考慮	O				O %1				O			
		48 安土 つ	- - -	業務遂行段階における提案	O			(7)=	O			(7)=	O			(7)=
		提案力、引	以苦刀	業務遂行上必要となる課題の提案	O %1			①×10/10	O %1			①×10/10	O			①×10/10
		[加点評	·1四」	業務内容等改善の提案	0 %1				0 %1				0 %1			_
				小計	①100点満点			(7)	①100点満点			(7)	①100点満点			(7)
				目的と内容の理解	O			0	O				O			
				必要情報の把握	ŏ			<u>(7)=</u>	ŏ			(7)=	ŏ			(7)=
		AUG 757 + 1. 7 - 3		検討項目、検討手法	ŏ	0	0	①×1/10	ŏ	0	0	①×1/10	ŏ	0	0	①×1/10
専	<u> </u>	業務執行	文衕刀	打合せ資料の内容[減点評価]	0 %2			+3×5/10	0 %2			+3×5/10	0 %2			+3×5/10
F]			十分な技術力	0		0	$+(5) \times 4/10$	0		0	$+(5) \times 4/10$	0		0	$+5 \times 4/10$
技	Į.			小計	①100点満点	③100点満点	⑤100点満点	(7)	①100点満点	③100点満点	⑤100点満点	(7)	①100点満点	③100点満点	⑤100点満点	(7)
術	ī jī	他工時への配	イ『概略設	施工に関する一般的な知識	O 711.11 7211	© 711.11 7711.	O 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	Ü	O = = = 71111 77113	© 1 111.11 12111	() MINIT 7/110	Ü	Δ	() · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	O = = 711117 77111	7)=
カ		慮(設計時評	計 予備設	施工条件等の把握									Δ			①×1/10
		15、設計業務を	計』の場合	小計									①100点満点			(7)
		対象に評定す		施工に関する一般的な知識												Ŭ
		る。											Δ			7=
		1、口のいずれ		施工条件等の把握									Δ.			①×1/10
→		かを選択す	計劃の場合	施工計画(施工方法、仮設備計画)									Δ			
긺	-	<u>る。)</u>	346 1	小計									①100点満点			7
고 セ		コスト把握		コスト把握能力									Δ			7=1 × 1/10
يار	(]	設計業務を対象		小計	-								①100点満点			7
☆				実施手順、工程計画	0 %2				0 %2				0 %2			
温		<= 70.66.70		実施体制	0 %2			(7)=	0 %2			(7)=	0 %2			(7)=
ш		工程管理	能力	打合せ内容の理解、記録	0 %2			①×10/10	0 %2			①×10/10	O %2			①×1/10
管	5	[減点評	'1曲」	内部関係者への情報伝達	0 %2			,	0 %2			,	0 %2			., .,
揖				工程管理	0 %2				0 %2				0 %2			
理 技	<u> </u>		146	小計	①100点満点			7	①100点満点			7	①100点満点			7
術	- 1	品質管理		ミス防止の実施	0 %1			7=1 × 10/10	0 %1			7=1 × 10/10	0 %1			7=1 × 10/10
一力	įμ	詳細設計以外	ま加点評価」	小計	①100点満点			7	①100点満点			7	①100点満点			7
		>=>±11 =>> 1 11	-D +6 //- 1	当初計画の変更	0 %1			(7)=	0 %1			(7)=	0 %1			(7)=
	;	迅速性、弾力性		関連事業者間の調整	0 %1			①×10/10	0 %1			①×10/10	0 %1			①×10/10
		[加点評	'1曲」	地元住民との合意形成	0 %1				0 %1				0 %1			
<u> </u>	_			小計	①100点満点			7	①100点満点			7	①100点満点			7
	긘			理解しやすい説明・プレゼンテーション(資料)	0			(7)=	0			(7)=	0			(7)=
シ		説明力、プレゼ	ンテーション	理解しやすい説明・プレゼンテーション(対応)	0		0	①×1/10	0		0	①×1/10	0		0	①×1/10
3 :	기	力、協調	国性	説明を補う努力	0		_	+5×9/10	0			+5×9/10	0		_	+5×9/10
ン:	-			円滑な業務遂行への努力[加点評価]	0 %1			_	0 %1			_	0 %1			
力 ²				小計	①100点満点		⑤100点満点	7	①100点満点		⑤100点満点	7	①100点満点		⑤100点満点	7
	取	* 17 CT 1* 1* 1**		責任感、積極性	0			7=1) × 1/10	0			$7=1 \times 1/10$	0			(7)=(1) × 1/10
姿;	桕	責任感、積極的	生、倫埋観	責任感、積極性、倫理観	()	0		+3×9/10	O	0		+3×9/10	() L	0		+3×9/10
勢				小計		③100点満点		7	_	③100点満点	_	7		③100点満点		7
				目的の達成度	0		0	(7)=	0		0	(7)=	0		0	(7)=
果		成果品の品		的確なとりまとめ	0		0	①×1/10	0		0	①×1/10	0		0	①×1/10
計				ミスの有無	0		0	+5×9/10			0	+5×9/10			0	+5×9/10
1皿				小計	①100点満点		⑤100点満点	7	①100点満点		⑤100点満点	7	①100点満点		⑤100点満点	7
)加重平均点-	→	10		加重平均点-	→	10)加重平均点-	→	10
			総合詞	評定点の算定	事故等による		7 \+ L	(1)	事故等による		. 7 \- L	(1)	事故等による	<u> </u>	7 	11)
					坂泚修補又に	は損害賠償によ	る减点	(12) (12)-(13) (13) (13)	坂泚修補又は	は損害賠償によ	る減点	(12)	坂泚修補又に	は損害賠償によ	る减点	12
					総合評定点			(13)=(10)+(11)+(12)	総合評定点			(13)=(10)+(11)+(12)	総合評定点			(13)=(10)+(11)+(12)

は、評定対象外。 〇は、必須評定項目。

△は、選択評定項目。

※1は、加点評価項目

※2は、減点評価項目

注: 1. 各評価項目の「⑦業務評定」は少数第一位までとする。 2. 「⑦の評定点の加重平均点」は、少数第一位を四捨五入し整数とする。

9. 採点表 (1)地質調査、単純調査等業務、測量作業 ①[主任監督員用]

(, , , , , , ,	貝讷且、	中 祀 讷 且 守	未伤、	測量作業 ①[主任監督員用]		(1/4)
評価	項目	評価の 視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
		業務着手 段階におけ る業務特 性等の考 慮	20	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	12	当該作業(業務)の仕様や発注者からの指示等を満たす 提案がなされた。当該作業(業務)の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは 高度な調査・解析・設計等の手法・技術に関する提案がな された。注1)
	提案 力、改	業務遂行 段階おける 提案	40	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	24	□作業(業務)遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。□関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レベルに基づく提案がなされた。注1)
į.	・ハ、(加 善力(加 点評価)	業務遂行 上必要とな る課題の 提案	20	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	12	□当該作業(業務)で不足する課題が抽出された。□検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された。
		業務内容 等改善の 提案	20	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	12	□作業(業務)の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。□作業(業務)の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。
		小計	100	(1)	60	
		ופיני	100	デ価項目チェック数 0⇒「0.2」		□ 業務(調査)計画書に必要事項が記載されていた。注2)
		目的と内容 の理解	20	1⇒ [0.4] 2⇒ [0.6] 3⇒ [0.8] 4⇒ [1.0]	4	□ 当該作業(業務)の目的、内容が理解されていた。 □ 業務(調査)計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。注2) □ 特記仕様書等に示された当該作業(業務)と関連する他の作業(業務)、事業が理解されていた。
プロセス評価専門技術力		必要情報 の把握	20	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	「作業(業務)着手時点において、適切に資料等が整備された。 た。 作業(業務)実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 「作業(業務)遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がなされていた。 「作業(業務)遂行段階で、当該作業(業務)に有意な情報が自主的に提供された。
	業務執 行技術 力	検討項目、 検討手法	20	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	□検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □採用された検討手法の技術的内容は、作業(業務)の目的に適合していた。 □作業(業務)目的に照らし必要な調査又は作業項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □提案された作業(業務)手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注1)
		打ち合わ せ資料の 内容[減点 評価]	20	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」	12	□打ち合わせ資料に、作業(業務)の各段階で必要とされる 内容が盛り込まれていなかった。□打ち合わせ資料に大きなミスがあった。
		十分な技 術力	20	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	 一作業(業務)に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。 一特記仕様書等に示された当該作業(業務)固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。(測量においては、作業に応じた機器等が配置されていたこともあわせて評価する) 一作業(業務)遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。
				0.2		
				0.2		に十分対応できる能力を有していた。注1)

注1)考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。 注2)測量作業においては国土交通省公共測量作業規定第10条または第110条に基づく作業計画をいう。

				得点率		(2) 1)
評	価項目	評価の	配点	優 標準 劣	得点	評価細目
		視点		1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	1.47	
		実施手順、 工程計画	30	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」	18	□契約締結後15日以内に業務計画書が提出されないなど、 速やかに作業(業務)着手がなされなかった。 □作業(業務)実施方針及び作業(業務)工程表には、設計 図書に示された事項が適切に反映されていなかった。
		実施体制	10	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」 0.6	6	──契約図書に基づき、管理技術者届け及び調査(業務)計画書が提出されなかった。注)──調査(業務)計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により、業務が履行されなかった。注)
プロセ	工程管理能力[減点評価]	打合せ内 容の理解、 記録	10	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」	6	□打合せ記録簿が提出されなかった。 □打合せ記録簿の記載内容が打ち合わせ結果を適切に反映してなかった。
セス評価性技術力		内部関係 者への情 報伝達	10	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」	6	□受注者内の意志疎通が不十分であり、指示や打ち合わせ 事項が資料等に反映されなかった。 □受注者内の意志疎通が不十分であり、同様な指示を何度 でも実施した。
		工程管理	40	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」	24	□工程に遅れが目立ち、履行期限内に納品されない恐れがあり、繰り返し指示を行った。(発注者側に遅延要因がある場合を除く) □工程に遅れが目立ち、関連する他の業務・事業等に影響を及ぼした。(発注者側に遅延要因がある場合を除く)
		小計	100	①	60	
	品質管 理能力 [加点評 価]	ミス防止の 実施	100	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	60	□第3者(管理技術者、担当者、照査技術者)以外のチェック 等自主的な品質管理の努力がなされていた。注) □品質管理のためのシステム(ex.ISO9001)が構築されている 部署で、作業(業務)を行った。
	L mil	小計	100	0.6	60	FEB STITISTINGS CITY CO

		評価の		得点率	<u>,_</u> .	
評	西項目	視点	配点	優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
		当初計画 の変更	40	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	24	□業務遂行中に生じた、当初工程計画からの変更要請に迅速に対応した。 □をの結果生じた検討(作業)内容が特に優れていた。
管理技術力	迅速 性、弾 力性、 調整能 力[加点	関連事業 者間の調 整	30	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	18	一発注者からの指示に基づき、関連事業者間の調整のための資料が円滑に作成された。□作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
	評価]	地元住民と の合意形 成	30	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	18	一発注者からの指示に基づき、地元住民との合意形成のための資料が円滑に作成された。□作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
		小計	100	(60	
プコセ		理解しやすい説明・プレゼンテーション(資料)	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	 □日時・場所・参加者・目次・頁等が明記された資料となっていた。 □図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 □資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 □資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができた。
ス評価 コミュニケーシ	表、ゼーカ 現プンシ、 調プンシは 調が	理解しやすい説明・プレゼンテーション(対応)	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	 対合せ開始時に、打合せの趣旨・目的が説明された。 質問に対し的確な回答がなされた。又は即答できない場合には回答期限が提示された。 一般論と当該作業(業務)固有の議論が明確に区別されていた。 曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。
ヨンカ	· 初1生	説明を補う 努力	20	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	 説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。 説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。 相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。
		円滑な業 務遂行へ の努力[加 点評価]	20	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	12	□密に作業(業務)の進捗状況等が発注者に報告されていた。 た。 □作業(業務)遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告がなされた。
		小計	100		28	1-18-19 BC19/C0

<u>, , , </u>	/	5只则且、	平吨侧且寸:	~1/J\	例里作未 ①[工任血目负用]		(न/ न/
	評值	西項目	評価の 視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
プロセス評価	姿勢	責任 感、積 極性、 倫理観	責任感、積 極性	100	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	20	 管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動は無かった。 打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかった。 業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が再確認されていた。 業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わせ、放下部が展ります。
			.l. = l	100		00	せや確認が迅速になされた。
			小計 目的の達 成度	40	① 評価項目チェック数	8	□設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □作業(業務)遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □作業(業務)成果は、作業(業務)目的に照らし満足できる内容のものであった。 □高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い作業(業務)に対し必要な作業(業務)成果が得られた。注) □設計図書にある検討項目、作業(業務)遂行段階での指示
結果評価		注果品の 品質	的確なとり まとめ	30	0⇒[0.2] 1⇒[0.4] 2⇒[0.6] 3⇒[0.8] 4⇒[1.0]	6	事項を、漏れなく取りまとめている。 □理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 □設計図書にある事項、作業(業務)遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。
			ミスの有無	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	 □成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。 □誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。 □修正が必要なミスは無かった。 □ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
			小計	100	1)	20	

小計 100 注)考査基準の巻末「参考: 採点上の補足」を参照のこと。

Ė			平吨明且 寸		得点率		(1/ 1/
	評化	西項目	評価の 視点	配点	優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	
プロセ	専門技術力		業務執行 技術力	100	右記評価細目の該当項目を総合的に判断して「0.2」、「0.4」、「0.6」(基準点)、「0.8」、「1.0」を付与する。	0	□当該作業(業務)の目的と内容の理解について、特に評価できるものであった。 □当該作業(業務)に必要な情報の把握について、特に評価できるものであった。 □当該作業(業務)に対する検討項目及び検討手法について、特に評価できるものであった。 □当該作業(業務)の打合せ資料の内容について、特に評価できるものであった。 □当該作業(業務)に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価できるものであった。
ス					0.0		
評			小計	100		0	
価	取組姿	責任 感、積 極性、 倫理観	責任感、積極性、倫理 観		右記評価細目の該当項目を 総合的に判断して「0.2」、 「0.4」、「0.6」(基準点)、 「0.8」、「1.0」を付与する。	0	□企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 □当該作業(業務)遂行にあたって、取り組みへの積極性・ 責任感に対して評価できるものであった。 □地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 □作業(業務)遂行中、新たに発生した課題等に対して、社 内全体として体制の拡充を図る等により、作業(業務)を完成させた。 □その他(理由:
			小計	100		0	
• •	· -		W F	I L 1	- の対兄」た会昭のこと		

小計 100 注)考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

評価項目 「「「「」」	(1)	地	質調査、	単純調査等	業務、	測量作業 ③[検査員用]		(1/1)
接対項目、	Ē	平征	項目		配点		得点	評価細目
お計	早月 オポップロセス	専門技術	業務執術	検討項目、 検討手法 十分な技	50	1.0 0.8 0.6 0.4 0.2 評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」 0.2 評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」	10	□検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □採用された検討手法の技術的内容は、作業(業務)の目的に適合していた。 □作業(業務)目的に照らし必要な調査又は作業項目が不足無<設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □提案された作業(業務)手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注) □作業(業務)に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。 □特記仕様書等に示された当該作業(業務)固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。(測量においては、作業に応じた機器等が配置されていたこともあわせて評価する) □作業(業務)遂行段階において発注者から新たに指示され
対している。	Щ							
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	l L	╝		小計	100)	20	
1		ミュニケーシ	カ、プレ ゼン テーショ ンカ、協	レゼンテーション力、	100	0⇒[0.2] 1⇒[0.4] 2⇒[0.6] 3⇒[0.8]	60	務)固有の議論が明確に区分されていた。□曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。☑ 説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されてい
評価項目チェック数	7	カ		小計	100		60	
 結果評価 的確なとりまとめ 30 おびは、はまりますのは、はまりまとめている。 1⇒「0.4」との「0.8」は まとめ まとめ まとめ まとめ まとめ まとめ まとめ まとめ まとめ まとめ				目的の達		評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」		□ 作業(業務)遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □ 作業(業務)成果は、作業(業務)目的に照らし満足できる内容のものであった。 □ 高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い作業(業務)に対し必要な作業(業務)成果が得ら
評価項目チェック数	評				30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	□理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 □設計図書にある事項、作業(業務)遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられてい
小計 100 (5) 20				ミスの右無	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」	6	誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡
··· • • • • • • • • • • • • • • • • • •						0.2		

	未伤、		リレエコ	£監督員用] 得点率		(1/4
評価項	目	評価の 視点	配点	慢 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
	ļ	業務着手 段階におけ る業務特 性等の考 慮	20	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	12	□ 当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた。□ 当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に関する提案がなされた。注)
技	是案	業務遂行段階におけるより	40	0.6 評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	24	□ 業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。□ 関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度なけます。
力善)、改 力(加 評価)	る提案 業務遂行 上必要とな	20	2→11.0」 0.6 評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」	12	技術レベルに基づく提案がなされた。注) 」当該業務で不足する課題が抽出された。 「検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提別
	-	る課題の 提案 業務内容		2⇒「1.0」 0.6 評価項目チェック数 0⇒「0.6」		□ された。 □ 業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。
	-	等改善の 提案 小計	100	1⇒ [0.8] 2⇒ [1.0] 0.6	12 60	□業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。
				評価項目チェック数		□業務(調査)計画書に必要事項が記載されていた。
		目的と内容 の理解	20	0⇒ [0.2] 1⇒ [0.4] 2⇒ [0.6] 3⇒ [0.8] 4⇒ [1.0]	4	□ 当該業務の目的、内容が理解されていた。□ 業務(調査)計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。
				0.2		□特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務 事業が理解されていた。
プコセス評価専門技術力		必要情報 の把握	20	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	 業務着手時点において、適切に資料等が整備された。 業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。 業務遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がなされていた。 業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された。
行	務執 技術 力	検討項目、 検討手法	20	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	 □検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足しいた。 □採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適していた。 □業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □提案された検討手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった注)
		打ち合わ せ資料の 内容[減点 評価]	20	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」	12	□打ち合わせ資料に、業務の各段階で必要とされる内容が 盛り込まれていなかった。 □ 打ち合わせ資料に大きなミスがあった。
		十分な技 術力	20	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	□業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。□特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。□業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。
				0.2		──新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術 に十分対応できる能力を有していた。注)

評価項目	<u>`</u>	アカイン			[四目只用]		(2/4)
実施手順、 30	i	评価項目		配点		得点	評価細目
実施体制 10				30	0⇒[0.6] 1⇒[0.4] 2⇒[0.2]	18	速やかに業務着手がなされなかった。 「業務実施方針及び業務工程表には、設計図書に示された
Tate			実施体制	10	0⇒ [0.6] 1⇒ [0.4] 2⇒ [0.2]	6	業務計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制に
1	プロ	理能力	容の理解、	10	0⇒ \(\tau_{0.6}\) 1⇒ \(\tau_{0.4}\) 2⇒ \(\tau_{0.2}\)	6	
工程管理 40	ロセス	理 技 術	者への情	10	0⇒[0.6] 1⇒[0.4] 2⇒[0.2]	6	事項が資料等に反映されなかった。 受注者内の意志疎通が不十分であり、同様な指示を何度
語質管理的				.0	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」		あり、繰り返し指示を行った。(発注者側に遅延要因がある場合を除く) 「工程が業務計画書どおりでなく、関連する他の業務・事業等に影響を及ぼした。(発注者側に遅延要因がある場合を
品質管 理能力 [加点評 価] コロロ コロロ コロロロ コロロロロ コロロロロロロロロロロロロロロロロ		I	小計	100	1	60	
		理能力 [加点部	宝体	100	0⇒ \[0.6 \] 1⇒ \[0.8 \] 2⇒ \[1.0 \]	60	│ │ □ 品質管理のためのシステム(ex.ISO9001)が構築されている
	1 1	""	小計	100		60	

≘ π .	14/1/1/	計画業務(ソレエト			(3/4)
ā '' 1	西項目	評価の 視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
		当初計画 の変更	40	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」 0.6	24	□業務遂行中に生じた、当初工程計画からの変更要請に迅速に対応した。 □をの結果生じた検討内容が特に優れていた。
管理技術士	迅速 性、弾 力性、 調整能 力[加点	関連事業 者間の調 整	30	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	18	□発注者からの指示に基づき、関連事業者間の調整のための資料が円滑に作成された。□作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
Л 	評価]	地元住民と の合意形 成	30	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」 0.6	18	□発注者からの指示に基づき、地元住民との合意形成のための資料が円滑に作成された。□作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
		小計	100	1	60	
プロー		理解しやすい説明・プレゼンテーション(資料)	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	 □ 日時・場所・参加者・目次・頁等が明記された資料となっていた。 □ 図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 □ 資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 □ 資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができた。
セス評価コミュニケーシュ	表プレーテンでは、	理解しやす い説明・プ レゼンテー ション(対 応)	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	
ヨンカ	調性			評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」		□説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。
		説明を補う努力	20	3⇒[0.8] 4⇒[1.0]	4	□説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。□相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。□説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。
			20		12	□ 合、他のメンバーにより補足説明がなされた。 □ 相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 □ 説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されて

(2	(2)調宜耒務、計画耒務(リレエロ			(4/4)	
	評価項目		評価の		得点率		
	評価	項目	視点	配点	優 標準 劣	得点	評価細目
			1)UM		1.0 0.8 0.6 0.4 0.2		
プロセス評価	取組姿勢	責任 感、極性、 倫理観	責任感、積 極性	100	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	20	□管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動は無かった。□打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかった。□業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が再確認されていた。□業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わ
					0.2		
			小計	100	(1)	20	C 1 REDUNG XEXET - 05 C 1 07 C 6
			目的の達成度	40	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	8	□設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。□業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。□業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。
					0.2 評価項目チェック数		□高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度 の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注) □ 設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項
結果評価		成果品の 品質	的確なとり まとめ	30	0⇒[0.2] 1⇒[0.4] 2⇒[0.6] 3⇒[0.8] 4⇒[1.0]	6	 一を、漏れなく取りまとめている。 □理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 □設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。
			ミスの有無	30	評価項目チェック数	6	 □成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。 □誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。 □修正が必要なミスは無かった。 □ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
			小計	100	(1)	20	The state of the s

| 小計 | 100 | 注)考査基準の巻末「参考: 採点上の補足」を参照のこと。

	評値	西項目	評価の 視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
プロセ	専門技術力	業務執 行技術 力	業務執行 技術力	100	右記評価細目の該当項目を 総合的に判断して「0.2」、 「0.4」、「0.6」(基準点)、 「0.8」、「1.0」を付与する。		□当該業務の目的と内容の理解について、特に評価できるものであった。 □当該業務に必要な情報の把握について、特に評価できるものであった。 □当該業務に対する検討項目及び検討手法について、特に評価できるものであった。 □当該業務の打合せ資料の内容について、特に評価できるものであった。 □当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価できるものであった。 □その他(理由:
ス			17. = T	100	0.2	20)
評価	組姿	責任 感、積 極性、 倫理観	小計 責任感、積 極性、倫理 観		右記評価細目の該当項目を 総合的に判断して「0.2」、「0.4」、「0.6」(基準点)、「0.8」、「1.0」を付与する。	20	□企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 □業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対して評価できるものであった。 □地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 □業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体として体制の拡充を図る等により、業務を完成させた。 □その他(理由:
1			小計	100	0.2	20	

12	(2)調査業務、計画第 		計凹未務 (3)[快省	隂貝用」 【 得点率 【		(1/1)
	評値	西項目	評価の	配点	<u> </u>	得点	評価細目
			視点		1.0 0.8 0.6 0.4 0.2		
	術	業行	検討項目、 検討手法	50	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」 0.2 評価項目チェック数 0⇒「0.2」	10	 □検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 □業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □提案された検討手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注) □業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。
プロセス評価	力		十分な技 術力	50	1⇒ [0.4] 2⇒ [0.6] 3⇒ [0.8] 4⇒ [1.0]	10	□特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。□業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。□新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していた。注)
			小計	100	0.2 (5)	20	
	ニケーシ	説カゼテン調 明 プンーカ性 と っぱ	説明力、プレゼンテー ション力、 協調性	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	20	 □質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該業務固有の議論が明確に区分されていた。 □曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。 □説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 	
	力 力				0.2		□説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場 合、他のメンバーにより補足説明がなされた。
			小計	100	(5)	20	ロ、他のメンバーにより相足説明がなされた。
		以果品質	りい。 目的の達 成度	40	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	8	 □ 設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ 業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □ 業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 □ 高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注)
結果評価	成		的確なとり まとめ	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	 設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。
			ミスの有無	30	0.2 評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	 □成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。 □誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかっ □修正が必要なミスは無かった。 □ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
					- の補兄 太参昭のこと		

(3)設計業務		①[主任監督員用]				(1/5)	
評価項目		評価の 視点	配点	1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目	
		業務着手 段階におけ る業務特 性等の考 慮	20	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	12	□ 当該業務の仕様や発注者からの指示等を満たす提案がなされた。□ 当該業務の特性を考慮しつつ、新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に関する提案がなされた。注)	
	提案 力、改	業務遂行 段階おける 提案	40	0.6 評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	24	□ 業務遂行段階で新たな視点からの提案がなされた。□ 関連する多面的な視点から検討された、あるいは高度な技術レベルに基づく提案がなされた。注)	
	善力(加 点評価)	業務遂行 上必要とな る課題の 提案	20	0.6 評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	12	□ 当該業務で不足する課題が抽出された。□ 検討課題と共に今後実施すべき検討事項・方針等が提案された。	
		業務内容 等改善の 提案	20	0.6 評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	12	□業務の作業効率を向上させる提案が、自主的になされた。□業務の内容・精度を向上させる提案が、自主的になされた。	
		小計	100	(1)	60		
		目的と内容 の理解		評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	□ 業務計画書に必要事項が記載されていた。□ 当該業務の目的、内容が理解されていた。□ 業務計画書の実施方法等に、業務内容を具体化する記述があった。□ 特記仕様書等に示された当該業務と関連する他の業務、事業が理解されていた。	
プロセス評価専門技術力	業務執術力	必要情報 の把握	20	0.2 評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	□業務着手時点において、適切に資料等が整備された。□業務実施の各段階で、入手した資料が理解・活用されていた。□業務遂行段階で、新たに必要とされた情報収集の努力がなされていた。□業務遂行段階で、当該業務に有意な情報が自主的に提供された。	
		検討項目、 検討手法	20	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	 □検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 □採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 □業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 □提案された検討手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注) 	
		打ち合わ せ資料の 内容[減点 評価]	20	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」	4	☑打ち合わせ資料に、業務の各段階で必要とされる内容が 盛り込まれていなかった。☑打ち合わせ資料に大きなミスがあった。	
		十分な技 術力	20	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	 業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十分に理解されていた。 特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。 業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。 新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術 	
		小計	100	0.2 ① この補足」を参照のこと。	20	について十分満足できる解決が図られていた。 	

(3)設計業務 ①[主任監督員用]

(3)設計業務			1只加.		/B E =				(2/5)	
評	価項目		評価の	配点		得点率 標準	<u>\$</u>	劣	得点	評価細目
"	ш-д ц	'	視点	поли	1.0 0.8	0.6	0.4	0.2	13711	#1 Im 1 m
		□イ・『概略設計、	施工に関 する一般的 な知識	60	評価項目子		0⇒[0 1⇒[0 2⇒[0 3⇒[0 4⇒[1	.4]).6]).8]	12	□設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 □施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。 □施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有していた。 □施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。
	施時の慮設時評	予備設計』の場合	施工条件 の把握	40	評価項目チ		牧 0⇒「0 1⇒「0 2⇒「0 3⇒「0 4⇒「1	.4] 1.6] 1.8]	8	□当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握していた。 □当該地域の環境特性を把握していた。 □担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。 □契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報を把握した。
	価]		小計	100				(1)	20	
プロセス評価管理技術力	(計務対に定るイロいれをおう)設業を象評す。、のずか選択	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	施工に関する一般的な知識	40	評価項目チ	0.2	0⇒「0 1⇒「0 2⇒「0 3⇒「0 4⇒「1	1.4] 1.6] 1.8] 1.0]	8	□設計、図面作成において留意すべき、施工に関する一般的な知識を有していた。 □施工方法の検討において一般的に留意すべき点を理解していた。 □施工方法の内容及び長所・短所に関する一般的な知識を有していた。 □施工方法が周辺環境におよぼす一般的な影響を理解していた。 □当該地点における施工上の制約条件や問題点を把握して
	し、エッケする。)	『詳細設計』の場合	施工条件 の把握	30	評価項目チ	0.2 エックキ	0⇒[0 1⇒[0 2⇒[0 3⇒[0 4⇒[1	.4]).6]).8]	6	いた。 当該地域の環境特性を把握していた。 担当者の施工に係わる要求事項を把握していた。 契約図書及び発注者に指示された施工に係わる関係機関等の情報を把握した。 必要事項を記載した施工計画が提案された。
			施工計画 (施工方 法、仮設備 計画)	30	計画視日で		0⇒ [0 1⇒ [0 2⇒ [0 3⇒ [0 4⇒ [1	.4] .6] .8]	6	□ 必要事項を記載した他工計画が提案された。 □ 加工条件を的確に踏まえた施工方法、仮設備計画が提案された。 □ 工事が周辺環境に及ぼす影響を考慮した上で、施工方法、仮設備計画が提案された。 □ 当該工事箇所における施工上の留意事項が、重要度別かつ施工段階毎に適切に整理する提案がなされた。
			小計	100		U.Z		(1)	20	ノ心エ权陥毋に廻りに登理する掟余かはさんだ。
	コなける。	力業対評	コスト把握能力		評価項目チ	ェック参 0.2	数 0⇒「0 1⇒「0 2⇒「0 3⇒「0 4⇒「1	0.2] 0.4] 0.6]	20	□工事費に関するコスト把握能力を有していた。 □現地条件などの固有条件がコストに及ぼす影響を理解していた。 □コスト縮減に係わる提案があった。 □ライフサイクルコストや新技術・新工法等の総合的なコストを念頭においたコスト縮減に係わる提案があった。
			小計	100		0.2		(1)	20	で心現にのいにコヘト船派に派わる掟条がめつに。
			3 HI					\cdot		

(0)	双 二木1	,,		民川」			(3/3)
= 0	平価項目		評価の 視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
			実施手順、 工程計画	30	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」	18	──契約締結後15日以内に業務計画書が提出されないなど、 速やかに業務着手がなされなかった。──業務実施方針及び業務工程表には、設計図書に示された 事項が適切に反映されていなかった。
			実施体制	10	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」	6	□契約図書に基づき、管理技術者届け及び業務計画書が提出されなかった。 □業務計画書に示された業務組織計画に基づく実施体制により、業務が履行されなかった。
	工程 理能	力評	打合せ内 容の理解、 記録	10	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」 0.6	6	□打合せ記録簿が提出されなかった。□打合せ記録簿の記載内容が打ち合わせ結果を適切に反映していなかった。
プル	価] 		内部関係 者への情 報伝達	10	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.4」 2⇒「0.2」	6	□受注者内の意志疎通が不十分であり、指示や打ち合わせ 事項が資料等に反映されなかった。 □受注者内の意志疎通が不十分であり、同様な指示を何度 も実施した。
ロセス証	管里 支析力		工程管理	40	評価項目チェック数0⇒「0.6」1⇒「0.4」2⇒「0.2」	24	□工程に遅れが目立ち、履行期限内に納品されない恐れがあり、繰り返し指示を行った。(発注者側に遅延要因がある場合を除く) □工程が業務計画書どおりでなく、関連する他の業務・事業等に影響を及ぼした。(発注者側に遅延要因がある場合を除く)
			小計	100	(1)	60	PA (7
	イの略計予言	既設、備と』	ミス防止の 実施[加点 評価]	100	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	60	□第3者(管理技術者、担当者、照査技術者)以外のチェック 等自主的な品質管理の努力がなされていた。□品質管理のためのシステム(ex.ISO9001)が構築されている 部署で、業務を行った。
	밀이		1		0.6		
	9 6	î	小計	100	1	60	
	理弁サーニーの	詳設・』場	ミス防止の 実施	100	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	20	□業務計画書等に、照査体制が記載されていた。 □業務計画書等に、照査担当者が配置されていた。 □チェックリスト等の品質管理の記録により、照査が実施されたことを確認できた。
	=	1			0.2		□品質管理のためのシステム(ex.ISO9001)が構築されている 部署で、業務を行った。
			小計	100	(1)	20	FF E ~ () NOW [1] > 100

	計業務	①[主任監督	負用.			(4/5)
評化	西項目	評価の 視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
		当初計画 の変更	40	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	24	業務遂行中に生じた、当初工程計画からの変更要請に迅速に対応した。その結果生じた検討内容が特に優れていた。
管理技術力	迅速 性、弾 力性、 調整能 力[加点	関連事業 者間の調 整	30	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	18	□発注者からの指示に基づき、関連事業者間の調整のための資料が円滑に作成された。□作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
מנ	評価]	地元住民と の合意形 成	30	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」 2⇒「1.0」	18	□発注者からの指示に基づき、地元住民との合意形成のための資料が円滑に作成された。□作成された資料の内容が特に良くとりまとめられていた。
		小計	100	1	60	
ברל		理解しやすい説明・プレゼンテーション(資料)	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	 □ 日時・場所・参加者・目次・頁等が明記された資料となっていた。 □ 図表等を用いることにより、理解しやすい資料となっていた。 □ 資料の内容が簡潔明瞭であり、理解しやすい資料となっていた。 □ 資料の要約が作成されており、容易に内容を捉えることができた。
セス評価コミュニケーシ	説 ガ、ゼーカス 明プレ ョ協	理解しやす い説明・プ レゼンテー ション(対 応)	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	
ョンカ	調性	説明を補う 努力	20	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	4	 説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力されていた。 説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場合、他のメンバーにより補足説明がなされた。 相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 説明を補足するための的確な資料が、周到に用意されていた。
		円滑な業 務遂行へ の努力[加	20	評価項目チェック数 0⇒「0.6」 1⇒「0.8」	12	□密に業務の進捗状況等が発注者に報告されていた。
		点評価]		2⇒「1.0」 0.6		□業務遂行上、課題や問題点が発生した場合に迅速に報告がなされた。

	(3) 成 日 未		· [1 5 7 / 13 .			(3/3)
	評化	西項目	評価の 視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
プロセス評価	取組姿勢	責任 感、性、 極性観	責任感、積 極性	100	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	20	 □管理技術者、照査技術者、担当技術者として、責任逃れの言動は無かった。 □打合せにおいて確認・解決すべき事項について見逃しがなかった。 □業務遂行に誤りが無いよう、必要に応じ協議事項・決定事項等が再確認されていた。 □業務遂行段階において不明な点が生じた場合、問い合わる。
			. = .		0.2		せや確認が迅速になされた。
			小計	100	① 評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」	20	□設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ 業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。
			目的の達 成度	40	2⇒[0.6] 3⇒[0.8] 4⇒[1.0]	8	□業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 □高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注)
					0.2		
結果評価		:果品の 品質	的確なとり まとめ	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	 □設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 □理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 □簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 □設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。
			ミスの有無	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	 □ 成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。 □ 誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかった。 □ 修正が必要なミスは無かった。 □ ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
			小計	100		20	ドハはボン、少女百炔守ひ兀淵で4いしいた。
1			い。	100	(1)	20	

| | 小計 | 100 | 注)考査基準の巻末「参考:採点上の補足」を参照のこと。

(0	2/改	间未伤	② L 称 拍 监 首	貝用.						(1/1)
	評値	西項目	評価の 視点	配点	優 1.0 0.8	得点率 標準 0.6		劣 0.2	得点	評価細目
プロセ		門 業務執 業務執行 100 10.2]、 1 技 行技術 技術力 100 「0.4」、「0.6」(基準点)、 「0.8」、「1.0」を付与する。		20	□当該業務の目的と内容の理解について、特に評価できるものであった。 □当該業務に必要な情報の把握について、特に評価できるものであった。 □当該業務に対する検討項目及び検討手法について、特に評価できるものであった。 □当該業務の打合せ資料の内容について、特に評価できるものであった。 □当該業務に必要とされる技術力を十分に発揮し、特に評価できるものであった。 □その他(理由:					
ス			J. =1	400		0.2		<u> </u>		
評	<u>'</u>		小計	100				3	20	
価	取組姿	責任 感、積 極性、 倫理観	責任感、積 極性、倫理 観		右記評価細総合的に判「0.4」、「0.6」「0.8」、「1.0」	断して (基準	「0.2」、 点)、		20	□企業として積極的に技術の研鑽に取り組んでいる。 □業務遂行にあたって、取り組みへの積極性・責任感に対して評価できるものであった。 □地域への貢献等に関して、特に評価できるものであった。 □業務遂行中、新たに発生した課題等に対して、社内全体として体制の拡充を図る等により、業務を完成させた。 □その他(理由:
	ĺ		小計	100		0.2		(3)	20	
	ĭ		11.01	100				9	20	

Ť	(3)設計業務		受けた耳貝バ]	49 F 22		(1/1)
	評値	西項目	評価の 視点	配点	得点率 優 標準 劣 1.0 0.8 0.6 0.4 0.2	得点	評価細目
		業務執術	検討項目、 検討手法	50	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」 0.2 評価項目チェック数	10	 ○検討項目は、特記仕様書等の設計図書の項目を満足していた。 ○採用された検討手法の技術的内容は、業務の目的に適合していた。 ○業務目的に照らし必要な検討項目が不足無く設定され、検討項目間の整合も図られていた。 ○提案された検討手法は、従来技術を応用・統合化あるいは先進技術を活用するなど、難易度の高いものであった。注) ○業務に必要な技術基準、マニュアル、共通仕様書等が十
プロセス評価	術力	д	十分な技 術力	50	0⇒ [0.2] 1⇒ [0.4] 2⇒ [0.6] 3⇒ [0.8] 4⇒ [1.0]	10	分に理解されていた。 □特記仕様書等に示された当該業務固有の条件に対応可能な十分な技術力を有していた。 □業務遂行段階において発注者から新たに指示された事項について十分満足できる解決が図られていた。 □新たな、あるいは高度な調査・解析・設計等の手法・技術に十分対応できる能力を有していた。注)
			小計	100	0.2 (5)	20	
	ニケーション	説カゼテン調 明 プンーカ性 レョ協	ジョンカ、プレゼンナン 説明力、プロションカ、 協調性	100	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	20	 □ 質問に対し的確な回答がなされ、一般論と当該業務固有の議論が明確に区分されていた。 □ 曖昧な表現がない、的確かつ論理的な説明により、内容が容易に理解できた。 □ 説明の際に、相手の理解度を把握するよう努力され、相手の理解度に応じ、説明のポイント・速さ等が工夫されていた。 □ 説明が不十分若しくは説明当事者の説明が不十分の場
	カ				0.2	20	一合、他のメンバーにより補足説明がなされた。
		党 品質	小計 目的の達 成度	40	(5)評価項目チェック数0⇒「0.2」1⇒「0.4」2⇒「0.6」3⇒「0.8」4⇒「1.0」	8	 □ 設計図書に提示された項目が、漏れなく実施された。 □ 業務遂行段階での指示事項が、漏れなく実施された。 □ 業務成果は、業務目的に照らし満足できる内容のものであった。 □ 高度な技術レベル、多岐にわたる検討項目など、難易度の高い業務に対し必要な業務成果が得られた。注)
結果評価	成		的確なとり まとめ	30	評価項目チェック数 0⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」	6	 設計図書にある検討項目、業務遂行段階での指示事項を、漏れなく取りまとめている。 理解しづらい文章表現等は、ほとんど認められない。 簡潔で理解しやすい表現になっており、記載方法に創意工夫がみられ読みやすい。 設計図書にある事項、業務遂行段階での指示事項を関連づけ、重要な点が理解しやすく取りまとめられている。
			ミスの有無	30	 ジンク数 ○⇒「0.2」 1⇒「0.4」 2⇒「0.6」 3⇒「0.8」 4⇒「1.0」 	6	 □ 成果品の品質に大きな影響を及ぼすような、重大なミスは無かった。 □ 誤字・脱字、表記・計算ミスがわずかに認められたが、簡易に修正できる軽微なものであった若しくはミスがなかっ □ 修正が必要なミスは無かった。 □ ミスは無く、必要書類等も完備されていた。
Ļ	_				- の神兄 た糸昭のこと	20	1

採点表の考査項目で、"高度な技術レベル""難易度の高い業務"の項目があるが、これに関しては「設計・コンサルタント業務等入札契約問題検討委員会 中間とりまとめ」に示される「知識」の高い業務かつ/又は「構想力・応用力」の高い業務を指す。以下、標準的な業務内容に基づ

		軟弱地盤特殊土質試験	地盤・環境関連企画調査
		動的土質試験	動的応答解析
			ダム地質解析
			トンネル応力変形解析
			地盤環境調査解析
	#6.77 \ull 60.45 45 34 \ull 107.00 \ull 6.54	#6.77.14 @0.44 @6.14.5	
	軟弱地盤安定・沈下概略検討	軟弱地盤対策検討	
	施工時計測管理(高盛土・トンネル等)	トンネル変状調査	
	浸透流解析	地すべり機構解析	
	液状化判定	地すべり対策工検討設計	
左 ロ			
知識	ボーリング調査	地表地質踏査及び資料収集	
	土質試験・検層	トンネル渇水影響調査・解析	
	物理(弾性波等)探査		
	高盛土計器設置及び観測		
	地すべり計器設置及び観測		
	トンネル水文・水質観測調査		
	地盤環境(土壌・地下水等)調査		
	144		<u> </u>
	[想力•応用力	

図 地質調査の例

採点表の考査項目で、"高度な技術レベル""難易度の高い業務"の項目があるが、これに関しては「設計・コンサルタント業務等入札契約問題検討委員会 中間とりまとめ」に示される「知識」の高い業務かつ/又は「構想力・応用力」の高い業務を指す。以下、標準的な業務内容に基づ

			写真計測·判読	データ構造化	データ共有/統合
			画像解析・判読		
			三次元データ作成		
			デジタルマッピング		
	1		台帳作成(デジタル)		
			都市計画図		
			御巾計画区		
4-					
知識		TS地形測量	基準点測量・1級~3級		
A.7.			空中写真測量		
		基準点測量•4級	路線測量(県市町村)		
		水準測量	河川測量		
		地形測量•平板測量	用地測量	固定資産税台帳	
		区画整理測量	台帳作成(アナログ)	回足貝座悅口慨	
		地籍測量(C·D·G)	地籍測量(F·H)		
		簡易水準測量	地図編集	地図編集(特殊ケース)	
		写真作成	一筆調査(E工程)		
		路線測量			
		定期縦横断測量			
			- +# ±8	ーー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-
			植 源	71 - 1/12 HI / 1	

図 測量作業の例

採点表の考査項目で、"高度な技術レベル""難易度の高い業務"の項目があるが、これに関しては「設計・コンサルタント業務等入札契約問題検討委員会 中間とりまとめ」に示される「知識」の高い業務かつ/又は「構想力・応用力」の高い業務を指す。以下、標準的な業務内容に基づ

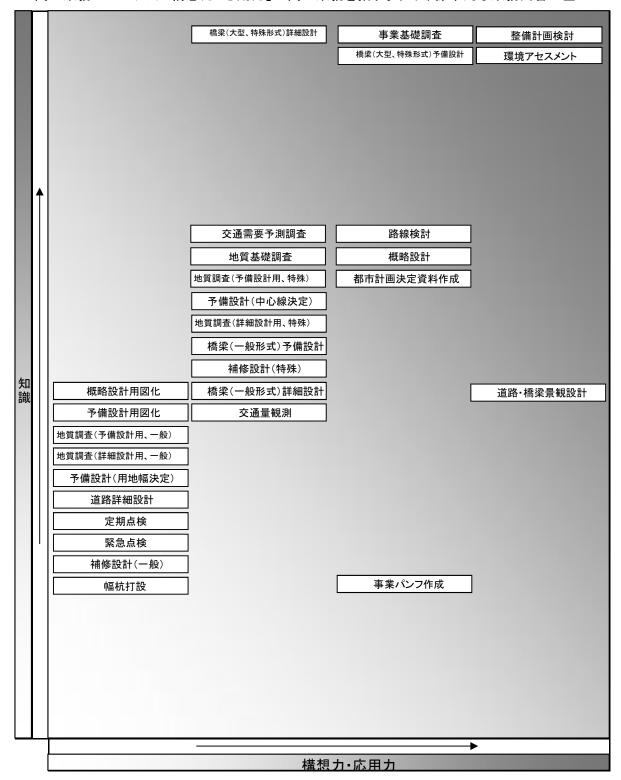


図 道路事業に係わる調査・計画・設計業務の例

採点表の考査項目で、"高度な技術レベル""難易度の高い業務"の項目があるが、これに関しては「設計・コンサルタント業務等入札契約問題検討委員会 中間とりまとめ」に示される「知識」の高い業務かつ/又は「構想力・応用力」の高い業務を指す。以下、標準的な業務内容に基づい

		利水計算	堰設計A	高水流量検討A	河川整備基本方針								
			水門設計	正常流量検討A	河川整備計画								
			排水機場設計A	治水経済調査A	水理·土砂解析A								
			河道計画A	環境管理基本計画	事業評価								
			防災システムB	氾濫解析	総合治水対策								
				利水計画	防災システムA								
				河川情報システム	環境アセスメント								
•	lack												
		正常流量検討B	高水流量検討B	計画降雨検討	特殊構造物設計								
		降雨解析A	低水流出解析		内水解析A								
		内水解析B	河道特性検討										
		河道計画B	ハザードマップ										
		堰設計B	堤防·護岸設計A										
			樋門•樋管設計A		河川整備計画 水理・土砂解析A 事業評価 総合治水対策 防災システムA 環境アセスメント								
4-													
知識		堤防•護岸設計B	治水経済調査B	河川環境整備	河川景観設計								
		樋門•樋管設計B	水理·土砂解析B										
		床止め設計	河川水辺環境調査										
			耐震調査										
			排水機場設計B										
		降雨解析B	点検調査	広報資料作成	水理計算プロク°ラム開発								
	'	水文・水質観測											
		定期縦横断測量											
		河川台帳作成											
_	1		1# 15	+ 									
	Į	<u> </u>											

注:A、Bは同種の業務における難易度の違いを表し、Aは難易度が大であるもの。

図 河川事業に係わる調査・計画・設計業務の例

考査基準

1. 総括監督員考査基準

(1) 考查方法

総括監督員は、評定趣旨を十分に理解し尊重した上で、それぞれ総合的に評定を行う。

(2) 評定点範囲

採点表(総括監督員用)の該当評価項目について、それぞれ総合的に判断して評定するものとする。

(3) 事故等による減点

当該業務遂行中に受託者に起因する事故等が発生し指名停止等の措置を行った場合には、 当該業務の総合評定点(100点満点換算)に対して、別表-1を参考として-15点まで減点する ことができる。

別表-1 受託者に起因する事故等が発生した場合の減点基準

区分	口頭注意	文書注意	指名停止1ケ月 まで	指名停止が1ケ月 を超える		
考査点	一3点	一5点	一10点	一15点		

【適応事例】

- ・入札前に提出した当該業務の技術提案書等が虚偽であった事実が判明した。
- ・発注者の承諾なしに当該業務に関する権利業務、成果物を第三者に譲渡又は承継、公開した。
- ・産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等、関係法令に違反する事 実が判明した。
- ・一括再委託、請負を行った。
- ・打ち合わせ協議または検査の実施にあたり、職務の執行を妨げた。
- ・当該業務において過積載等の道路交通法違反により、逮捕または送検等された。
- ・当該業務において安全管理の処分が不適切であったために、死傷者を生じさせた業務関係者事故、また は重大な損害を与えた公衆災害を起こした。
- •その他(理由:

(4) 瑕疵修補及び損害賠償による減点

成果品に、受託者の責任に起因する瑕疵が存在し、契約書のかし担保条項等に記された手続きに従い、瑕疵修補又は損害賠償が実施された場合には、当該業務の総合評定点(100点満点換算)に対して、別表-2を参考として-20点まで減点することができる。ただし、ここでいう瑕疵修補とは、軽微なミスの修正ではない大幅な修補をいう。また、総合評点が採点された後に当該事象が発生した場合は、遡って減点を実施するものとする。

別表-2 瑕疵修補又は損害賠償が実施された場合の減点基準

区分	瑕疵修補又は損害賠償の実施	故意又は重大な過失により瑕疵修補 又は損害賠償の実施
考査点	-10点	一20点

2. 主任監督員及び検査員考査基準

評定にあたっては、当該業務の履行状況に応じ、加減点要素の各項目に従って、評定を行うものとする。(評価項目の追加、削除、もしくは評価比重の変更は行わない)

3. 対象業務が複数の業務にまたがる場合の取扱い

対象業務が、「地質調査、単純調査等業務、測量作業」、「調査業務、計画業務」、「設計業務」 のうちの複数の業務にまたがる場合においては、業務の目的、金額を勘案し、原則として主たる 業務の考査をもって評定点とみなすものとする。

ここで、「地質調査、単純調査等業務、測量作業」、「調査業務、計画業務」、「設計業務」の3者 のうち複数の業務にまたがる場合の「主たる業務」の取扱いについては、以下を参考とされたい。

- ・「地質調査、単純調査等業務、測量作業」、「調査業務、計画業務」、「設計業務」対象部分のどれかが100万円を超えるときには、その業務を「主たる業務」とみなすものとする。
- ・「地質調査、単純調査等業務、測量作業」、「調査業務、計画業務」、「設計業務」対象部分の複数が100万円を超えるとき、もしくはどれもが100万円を超えない場合には、業務の目的、金額を勘案して、「主たる業務」を1つ選定するものとする。

これらの取扱いは、主任監督員及び検査員で統一するものとする。

4. 「単純調査業務」について

「調査業務、計画業務」は、広範かつ高度な専門的知識が要求される業務や高度な技術と豊かな 経験が要求される業務といった比較的難易度の高い調査業務に対応するものであるため、これに ついては「調査業務、計画業務」採点表を使用するものとする。しかしながら、この採点表を使用す る「設計業務共通仕様書」第1204条及び第1205条に規定する業務には、高度な技術力をそれほ ど必要としない単純なデータ処理業務や資料収集・整理業務等も含まれることから、これを「単純 調査業務」と定義し、「地質調査、単純調査等業務、測量作業」採点表を用いて評定するものとす る。なお、「単純調査業務」の対象業務については、以下に示す例を参考とされたい。

•「単純調査業務」の例

各部門共通 単純なデータ収集整理業務

単純なデータ処理業務 書類編集的な業務

文献収集業務

河川、砂防及び海岸 水理・水文観測業務

データ加工業務(降雨解析等)

不等流計算等の計算業務(システム開発を除く)

補償数量の算出

工事記録等資料の分類·整理 工事図面集、写真集等の作成

道路 一般的な現地踏査

一般的な交通量観測業務

台帳整理等を目的とした資料収集業務

トンネルクラック等変状の計測調査

施工計画及び施工設備施工関連資料の収集整理

情報 定期的なデータメンテナンス

資料収集的な業務

単純なデータ作成のみの業務

防災 資料収集的な業務

環境 大気汚染、水質汚濁、騒音、振動等調査・分析方法がJIS等で規定

されている測定業務

5. 採点表の選定について

対象業務が複数にまたがる場合の取り扱いや単純調査業務の選定は、主任監督員が決定する。

6. 技術者の評定について

各技術者の評定点は、業務に対する評定点のうち、以下の評価項目を抽出し、7. の重み付けを 考慮して付加する。

	評価項目	管理技術者 又は 主任技術者	担当技術者	照査技術者	
	提案	力、改善力	0	0	_
	業務	執行技術力	0	0	_
専門技術力	施工時への	概略設計、予備設計	0	0	_
	配慮(注2)	詳細設計	0	0	_
	コスト把]握能力(注2)	0	0	_
	工科	呈管理能力	0	-	_
管理技術力		〔管理能力	0	-	0
	迅速性、弹	単力性、調整能力	0	-	_
コミュニケーションカ		0	0	_	
取組姿勢	責任感、	積極性、倫理観	0	0	_
	成果品の品質	0	0	Ô	

注) 1.「担当技術者」はそれぞれ3人までとする。

7. 総合評定点について

総合評定点を算出する際には、対象業務に応じて各評価項目ごとに以下の重み付けを考慮する。

		寺耒務、測里作耒			調査業務、計画業務									
評価項目						術者評定		技術				技征	術者評定	
TIW성다			業務 評定	管理 又は 主任	担当 (注1)	照査	業務 評定	管理	担当 (注1)	照査	業務 評定	管理	担当 (注1)	照査
	提案力、改善力		2	2	2	—	2	2	2		2	2	2	! ! ! ! !
	業務遂行技術力		4	4	4		4	4	4	_	4	4	4	<u> </u>
専門 技術力	施工時への配慮	概略設計、 予備設計	_		_	_		_	_	_	1	1	1	——————————————————————————————————————
	(注2)	詳細設計		_	_						1	1	1	<u> </u>
	コスト把握能力 (注2)		_	_	_	_	_	_	_	_	1	1	1	——————————————————————————————————————
	工程管理能力		2	2			2	2			2	2	_	<u> </u>
管理 技術力	品質管理能力		2	2	_	2	2	2	_	2	2	2	_	2
		、弾力性、 整能力	1	1	_		1	1	_	_	1	1	_	<u> </u>
コミュニケー ションカ	コミュニケー 説明力、プレゼン		1	1	1	-	1	1	1	_	1	1	1	— —
取組 責任感、積極性、 姿勢 倫理観		2	2	2	_	2	2	2	_	2	2	2	 	
成果品の品質			7	7	4	1	7	7	4	1	8	8	5	1
	21 (100%)	21 (100%)	13 (100%)	3 (100%)	21 (100%)	21 (100%)	13 (100%)	3 (100%)	24 (100%)	24 (100%)	16 (100%)	3 (100%)		

注) 1「担当技術者」は3人までとする。

^{2.「}施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。

^{2.「}施工時への配慮」及び「コスト把握能力」は、設計業務のみ評定の対象とする。